



第3回かながわ教育学講座

コミュニケーション能力の育成

「コミュニケーション能力の育成」と題し、コア・ネット教育総合研究所の福本雅俊氏による講義がありました。

コミュニケーション能力には、様々な要素が含まれています。日常生活における様々な場面の中で、それぞれに合うコミュニケーションの形があり、相手によって望ましいコミュニケーションの形も異なります。コミュニケーションがうまくいかない場合の多くは、適したコミュニケーションの形をとらないことによる、相手との不一致によるものです。相手に応じたコミュニケーション能力が求められます。

学校においては、教職員、児童・生徒、保護者と、これまで以上にコミュニケーションの対象が広がります。中でも、教員の児童・生徒に対する関わり方には、知識や情報を教えるティーチング、経験や過去の例を伝えるメンタリング、本人の考えを引き出し気付かせるコーチングの三つがあり、教員はティーチングやメンタリングに傾きがちです。学習指導要領にある「学力の三要素」の1つ「思考力・判断力・表現力等」を育成するためには、コーチングを意識したコミュニケーションが重要です。コーチング・スキルを身に付けるために、児童・生徒の言葉に耳を傾け、傾聴を心掛けること、事柄に焦点を当て、問題解決を図る「限定質問」と相手に焦点を当てた「拡大質問」をバランスよく使うことが大切だと学びました。

今回の講義では、教員として求められる、コミュニケーション能力について多くのことを学びました。教員としてもつべき「コミュニケーション能力」をぜひ高めていってほしいと思います。



コア・ネット教育総合研究所
福本 雅俊 氏

グループ活動

前半の講義を踏まえ、児童・生徒と円滑なコミュニケーションがとれている教員の姿をイメージし、その姿に迫るためにどのようなことを心掛けていく必要があるのかを付箋に書き表し、グループごとに話し合う活動を行いました。「子どもの立場にたって会話する」「子どもの話に共感する」など、具体的に取り組めることを、考えることができました。受講者の一人ひとりが自分の意見を持ち、付箋を移動させながら班全員の考えを共有できるよう、活動を進める姿が印象的でした。



特別講座

午前中は、チャレンジコースの受講者対象の特別講座1を行いました。特別講座は、オープンコースの受講者も希望すれば聴講可能です。今回、オープンコースからも15名が参加しました。小学校と特別支援学校、中学校または高等学校英語に分かれそれぞれの内容についての講義を行いました。

小学校「子どもの命を守る」講師：森 英夫 教育指導専門員

森 英夫 教育指導専門員が講師を務め、「子どもの命を守る」をいうテーマで講義を行いました。教員の職務についての関係法令や神奈川県教育振興基本計画の確認の後、校内・校外の様々な場面での具体的な事例を、事故の予防や事故が起きたときの対処法とともにお話いただきました。教員の最大の使命は「学校の様々な脅威から子どもの命を守ること」。日常の学校生活の中にたくさんの見えない危機が潜んでおり、子どもの命をあずかる責任の重さを改めて認識したのではないのでしょうか。また、いじめを早期発見、解決するためには、普段から、教員と子どもの心の交流が不可欠であり、『見えないものを見る』『聞こえない声を聞く』『子どもの心を感じる』という姿勢が大切であるということも学びました。



特別支援学校「特別支援学校における授業づくり」

講師：八木 佳子 神奈川県立津久井養護学校総括教諭

八木 佳子 総括教諭が講師を務め、「特別支援学校における授業づくり」をテーマに講義を行いました。登校した時から下校までの「すべてが学習場面」という視点から、地域の学校との交流会で行った「カラフルバスケット」や小学部の生活科の授業、ことばかずの認知面での学習、日常生活場面での支援など授業だけでなく様々な場面における工夫点を学びました。障害特性や発達段階だけでなく、子どもの成長の歴史、気持ちを理解し、その上で環境調整によって分かるように伝えたり、「伝えたい気持ち」を育てたりすることの大切さを実感し、学びを深めることができました。



中学校英語又は高等学校英語「英語科における授業づくり」

講師：山口 勝 教育指導員

山口 勝 教育指導員が講師を務め、「英語科における授業づくり」というテーマで講義を行いました。英語科を通して育てたい生徒像を明確にし、英語の教員としての資質の向上に努めることを授業づくりの土台とした上で、基本的な授業構成や、1単位時間の指導過程、学習指導案の作成等について学びました。ウォームアップや音読指導等、授業の中での様々な活動における留意点についても理解を深め、実際の授業の動画を視聴して、講義で学んだ内容を確認しました。また、英語科の授業の特性を踏まえた授業の受け方についての約束をつくることや、生徒の実態を把握することなども大切で、日頃から積極的に声をかけて信頼関係を築き、安心して授業を受けられるように配慮する必要があることもわかりました。

